

どうして教会に行くの？

コラム

輝
き



今号のお話は、和田忠三さん。

プロフィール
豊中泉キリスト教会牧師
1947年愛媛県に生まれる
33年間住友重機工業(株)に33年間務めた後、牧師となる

クリスチャンのさまざまな体験を綴ります。

無神論者から牧師に 和田忠三

わたしは、愛媛県松山市の郊外、農家の七人兄弟の末っ子として生まれました。貧しいながらも豊かな自然の下で、両親や兄弟の愛情に囲まれて育ちました。

社会人となって2年目に、会社の代表として県の駅伝大会に出場しました。急な出張と重なり、コースの下見を行えないまま、初めて走る約10kmの道を、伴走車の叱咤激励を受けながら、ひたすらに走りました。



愛媛県駅伝大会にてバイクに先導される和田忠三さん (1967年)

気がつくと、わたしは病院のベッドに寝かされていました。中継点の100メートル位い手前でバツリ倒れて意識不明となり、急いで近くにあった病院に担ぎ込まれて酸素吸入を施され、約4時間後に意識を回復したのでした。

この事は、大きなショックでした。たまたま皆が見ている前で倒れ、近くに病院があったから助かったのです。「死はいつ訪れるか分からない」、この事を身をもって体験したわたしは、「死に対する備えが何もできてない」、事に愕然とさせられました。

「そもそも自分は、何のために生きてきたのか」「自分は一体これから何を目標にして、どう生きて行ったら良いのか」、これら一切が分からず、悶々とし、「生きて来なければ良かった」と自己憐憫(れんびん)に陥りました。

元来わたしは「無神論者」でした。幼い時から本に親しんだ結果、「日本神話やギリシャ神話に登場する神は、人間が創作したものであり、現実には何の頼りにもならない」と断定していました。従って、「宗教は、弱い人間が心の拠り所として作り上げたもの」と受けとめ、必要も魅力も感じず、毛嫌いしていました。

全く行き詰まっていたときに、同期入社的女性を通して教会へ導かれ、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう(聖書)」とのイエス・キリストの招きに出会い、信じて洗礼を受けました。

かつて、生かされている意味が分からず、意義を見出せず、生きていくことに疲れ切った体験をただけに、「何とかして、神さまの恵みとご愛とを、一人でも多くの方にお伝えしたい」と願い、牧師として仕えさせていただいています。

地域の皆さまにご挨拶

はじめまして。わたしたちは、1980年に設立されたプロテスタントの教会です。豊中泉キリスト教会は、約2年前の2011年10月に、豊中市役所の近くの中桜塚から、蛸池中町に引越してきました。

地域の皆さまに身近に感じていただける教会を目指し、このニュースレターを通して、みなさまにご参加いただける行事のご案内や当教会の紹介をさせていただきます。年に4回発行しますので、お読みいただくと幸いです。

豊中泉キリスト教会の軌跡



1956

豊中駅の近くに住むクリスチャン夫妻が家庭集会を開始



1957

豊中泉キリスト教会の前身である「豊中使徒教会」を設立



1980

豊中使徒教会から、市役所近くの中桜塚に移り名称を改め「豊中泉キリスト教会」を設立



2011

教会の老朽化により、蛸池中町に移転
2011年10月19日の祈禱会から現在地での集会を開始して現在に至っています